FRIENDS WITHOUT A BORDER

Voice of friends

2018 Winter

ニュースレター Vol.42

© Yumiko Izu

ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）近況報告

教育病院としてのラオ・フレンズ小児病院が活発になってきました

カンボジアのアンコール小児病院（AHC）を立ち上げた時から、一貫してフレンズが掲げる３つの柱があります。「医療・教育・予防」。ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）でももちろん、この３本柱は踏襲されています。

病院であるのだから、「医療」を行うは当然のことです。「予防」とは、まずは病気にならないための環境を整えていくこと。東南アジアでは、保健や栄養の知識を学ぶ機会がないまま暮らし、病気に対し無防備であるがゆえに罹患したり、何度も同じ病気を繰り返したりする例が多く、予防活動はとても重要です。そして、残る１つが「教育」。

LFHC が開院して２年。院内の設備はだいぶ整い、少しずつ稼働を始めた各部署は、今ではすべてオープンしました。その次の段階として大切なのは、人を育てる、ということになります。

まず取り組み始めたのは、部署ごとのラオス人リーダーの養成です。現在、各部署でリーダーを担っているのは、指導者でもある外国人スタッフ。しかし、いずれはラオス人が自分たちで担っていくことになるので、その自覚を持ってもらうこともまた、大切だと考えます。そこで、11 人のリーダー候補を選び、リーダー養成研修をスタートしました。

次に、これもまた重要視しているのが、専門性を伸ばすための教育です。「小児科」と一言で言っても、実際には、血液疾患、心疾患、発達障害、HIV 感染症など、様々な専門分野があります。小児科全般の一般的な医療知識や対処方法の習得はもちろん大事ですが、さらにその先に進んでもらうために、各人が興味のある分野を選び、より深く学んでいける態勢を整えられるよう動いています。

これらの教育にあたっては、外部からも専門講師を積極的に招聘して対応しています。一方、LFHC スタッフが外に出向き、講師をするケースも出始めました。フレンズが考える教育は、院内スタッフのみならず、ラオス国内の医療従事者を教育し、国全体の医療レベルを底上げしようというもの。カンボジアの AHC でもそれは同様で、その姿勢と実績により、AHC はカンボジア政府より「教育病院」として認定されています。姉妹病院である LFHC も、教育病院として大きく踏み出したと言えましょう。

▶LFHC では、様々なカリキュラムや能力別英語クラスなどを設けています

◀リーダー研修を修了した 11 人のスタッフです。今後の活躍に期待！

ルアンパバーンでもチャリティ・ガラディナーを行いました

ルアンパバーンでは初めての、チャリティ・ガラディナーが開催されました。初の試みに、参加者は集まるのか？会は盛り上がるのか？オークションは成功するのか？と、担当スタッフたちはいくつもの不安を抱えていたそうです。結果は……大成功！

会場のホテルには、160 名以上のゲストが集まりました。タイ王室のオーケストラメンバーによるコンサートも、オークションも、どれもとても盛り上がったとのこと。中でも、ルアンパバーン県保健局のアンポン局長は、率先して盛り上げ役になってくれたそうです。

この成功により、チャリティ・ガラディナーのような催しが、ルアンパバーンでも認知されることを期待しています。

▲初めての試みにスタッフは不安と期待でドキドキしていましたが、結果は大成功でした

第５回ルアンパバーン・ハーフマラソンが開催されました

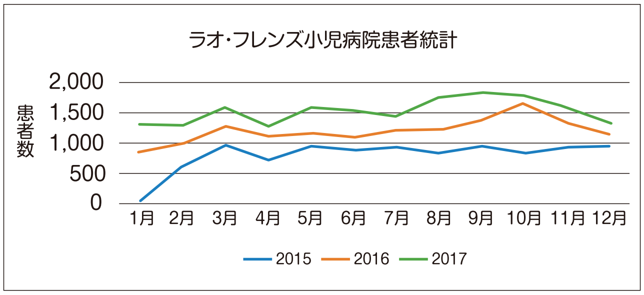
2017 年 10 月 22 日、毎年恒例となったルアンパバーン・ハーフマラソンが開催されました。2013 年にスタートしたこのイベントは、収益金が LFHC に寄付されるチャリティマラソン大会です。年々、参加者が増加し、今回の参加者は 1,200 人を超えました。また、チャリティのための開催であることが浸透してきたこともあり、収益は約 1,400 万円にもなったとのことです。

回を重ねるごとに盛り上がっているのは、大会の知名度が上がり近隣諸国からも大勢の参加者が訪れるようになったことや、大会を通して知り合い交流を持つようになった人たちがこの大会で顔を合わせる、というケースが増えているからではないか､とのこと。美しく小さな街・ルアンパバーンが活気づくのは、とても喜ばしいことです。

そして、これもまた恒例になった、カルロスさんのチャリティランもありました。フィリピン人のカルロスさんは、LFHC へのチャリティのため､大会の５日前にラオスの首都･ビエンチャンをスタートし､チャリティを募りながら走ってルアンパバーンに到着します。カルロスさんからは、約 200 万円のご寄付をいただきました。

LFHC のスタッフも、この日は全員参加です。病院に残り通常業務に就く者、走る者、ボランティアとして大会を支える者。このマラソン大会をきっかけに、スタッフ間の絆がグンと強まります。LFHC のチーム力アップにもなるマラソン大会、今年はぜひ、皆さまもご参加ください。

▲小さな街に１２００人ものランナーが集結！この大会に参加するためにラオスを訪れる外国人が年々増えています



▲たくさんの方々に応援していただき、大きな資金を集めることができました

クラウドファンディング【Readyfor】チャレンジ成功！サラセミアと闘うラオスの子供たちを救います

クラウドファンディング【Readyfor】は､インターネットを通じて多くの方に支援を呼びかけ、そこで集まった寄付をもとに目的のプロジェクトを実施する、というものです。実施するプロジェクトとそのために必要な目標金額を提示し、寄付額が目標額を超えるとチャレンジ成功となり、集まった寄付金をいただくことができます。ところが、寄付が目標額を下回るとチャレンジ失敗となり、１円もいただくことができません。

一昨年､「年間 800 人の命を救う、清潔で安全な手術室をラオスに作りたい」でチャレンジし、手術室の高性能 HEPA フィルターと備品を購入することができました。昨年は､「難病の血液疾患・サラセミアと闘うラオスの子供たちを救いたい」をプロジェクトとして掲げ、300 万円を目標にチャレンジ。様々な方法でご支援を呼びかけた結果、寄付総額が 327 万 7000 円となり、無事、チャレンジを達成することができました。

サラセミアとは、ラオスで多く見受けられる遺伝性の血液疾患で、極度の貧血状態に陥る難病です。症状が現れた際は、ラオスでは対症療法として輸血をするしか方法がありません。けれども、一般家庭で輸血費用を捻出するのは困難で、病気と知りつつ何もできない家庭が多いのが現状です。また、輸血ができた場合でも、繰り返し輸血を行うことで体内に鉄分が蓄積する２次障害が現れます。｢難病の血液疾患・サラセミアと闘うラオスの子供たちを救いたい｣ は、300 万円を輸血費用と鉄分測定器購入に充て、サラセミアの子供とその家族を助けるプロジェクトです。

このプロジェクトにご支援・ご協力いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

チャリティのサイクリングイベントを開催

◀手軽で楽しいチャリティイベントとして大人気。遺跡の街を自転車で颯爽と！

昨年12月2日、第12回目となる[アンコールワット Bike4kids（バイクフォーキッズ）]が、カンボジアのシェムリアップで開催されました。このイベントはカンボジアの国内オリンピック実行委員会と連携して企画されているもので、カンボジアの恵まれない子供たちのためのチャリティとして催されています。収益金の一部はアンコール小児病院（AHC）にも寄付されており、毎年、AHCのスタッフも参加。今年は、医師、看護師、警備員、清掃スタッフが参加したようです。

このイベントは年齢制限がないため、誰でも参加することができます。アンコール遺跡群エリアを通るルートで、17km、37km、117kmと3つのコースが設けられていて、体力に合わせた参加が可能。継続して開催されていることで知名度も上がり、楽しみながらチャリティができると、参加者も年々増加傾向にあります。

カンボジア旅行を計画することがあれば、こうしたイベントへの参加も合わせて考えると面白いのではないでしょうか。

農村部での保健教育活動を支援

フレンズJAPANは、ミャンマーの現地NGO「ゴールドミャンマー」と協力して、ミャンマーの農村部の子供たちに「栄養教育」などを行う支援活動に取り組んでいます。2016年からは、リーダーとなる村のお母さんを養成するための「トレーナー研修」も実施。その結果、お母さんトレーナーによる栄養講習会が各村で催されるようになり、多くの参加者を集めることができました。

また、村のボランティアの協力を得て、子供たちの身体測定や、幼児期の病気や栄養に関する勉強会も開催しています。

◀村のお母さんが講師となることで、食育がより身近な問題になります

Supporter

ラオス人スタッフのホストファミリー

LFHC では教育に力を入れていることをお伝えしましたが、学びの場は、病院の中だけではありません。外部のセミナーや学会は理論や技術を学ぶだけでなく、視野を広く持つことの重要性や、井の中の蛙であってはいけないことに、あらためて気づかされる機会でもあります。チャンスがあれば積極的に取り組みたい、というのがLFHCの方針です。

そんな中、11月に松山市で開かれた「日本小児血液・がん学会学術集会」に、LFHCのヴィライヴォン医師が招聘されました。まだ若い医師ですが海外での学会参加経験もあり、今回は、アジア交流セッションの貧血部門でサラセミアをテーマに講演。小児血液を専門とする医師たちでも、サラセミアに関してはほとんど症例を目にしたことがないそうで、とても大きな反響があったようです。ぜひ、また次の学会にもきてほしいと、早速オファーを受けたとのことでした。この学会での経験と刺激は、ヴィライヴォン医師の自信となり、今後の糧となるに違いありません。

ラオス人スタッフの来日に合わせ、とてもお世話になったのが、ボランティアでホームステイを受け入れてくださった池内さんご夫妻です。以前、LFHCのケオ看護師が来日した際、ホームステイ先を探していた時にご紹介を受け、ホストファミリーになっていただいたのがお付き合いの始まりでした。今回も快くお引き受けいただき、慣れない海外で緊張しているヴィライヴォン医師に、至れり尽くせりのサポートをしてくださいました。池内さん、ありがとうございました。

ホストファミリーになってみたい方、ホームステイまでは受け入れられないけれど観光案内はしたいという方、そのほか海外のゲストと何かしてみたいとお考えの方、ぜひ事務局までご連絡ください。

◀右から２人目がヴィライヴォン医師。学会で同じグループだったメンバーと

▶ラオス料理店での歓迎会。池内さんご夫妻やスタッフ、ボランティアさんと

フレンズ JAPAN 記念イベント
2017 年 5 月 13 日／東京都内レストラン

3月に代表の赤尾和美が医療功労賞を受賞したことを受け、あらためて、フレンズ･ウィズアウト･ア･ボーダーの活動とプロジェクト進捗状況を報告するイベントを開催しました。

団体創設者である井津建郎もニューヨークから駆けつけ、まずは団体の成り立ちや草創期についてスピーチ。続いて赤尾看護師よりラオ・フレンズ小児病院（LFHC）での活動状況について報告を行ったほか、LFHC で IT ボランティアをしていただいた佐藤広明さんからも活動報告をしていただきました。

また、この日は、クラウドファンディング Readyfor を通じた支援プロジェクトのチャレンジ開始日。参加者全員でスタートへのカウントダウンコールを行いました。

▲活動報告に聞き入る参加者

ラオスフェスティバル 2017
2017 年 5 月 27・28 日／東京・代々木公園

ラオスフェスティバルは日本とラオスの友好親善を目的とした交流イベントで、今回が６回目の開催。日本とラオスのアーティストによるスペシャルライブやラオスの民族舞踊、ラオス料理とインドシナ料理の飲食コーナーなどがあり、誰もが楽しめるお祭りです。

ラオスでの活動をきっかけに参加するようになったフレンズは３回目の出展で、ブースにはたくさんの方が立ち寄ってくださいました。こうした機会を通じて、ラオスや LFHC、フレンズの活動を、多くの方々に知っていただきたいと考えています。

▶ブースは大盛況

ジャパンハート × フレンズ共催イベント
2017 年 8 月 2 日／ Human Capital Studio
（東京・神楽坂）

認定 NPO 法人ジャパンハートと一緒に、《アジア途上国で活動する看護師によるトークイベント》を行いました。ジャパンハートは、ミャンマー・カンボジア・ラオスを中心に医療支援活動を行なっており、フレンズとは活動地域や活動内容で共通するところの多い団体です。2016 年に同様のイベントを行なったところとても好評だったため、第2弾を開催する運びに。

▲質疑応答やグループトークでは、活発に意見が飛び交いました

前半は、ジャパンハートの武内看護師とフレンズの赤尾看護師がそれぞれ講演。その後､パネルディスカッションやグループトークを行う構成で、国際医療について活発に意見が飛び交う、中身の濃いイベントとなりました。

K・MoPA チャリティ・トーク 2017
2017 年 9 月 2 日／清里フォトアートミュージアム

毎年恒例となっている清里フォトアートミュージアム（K・MoPA）のチャリティイベントが開催されました。第 18 回目となる今回のテーマは「脳トレ」。テレビやラジオでのわかりやすい解説が人気の脳科学者・篠原菊紀さんと、自然観察インストラクター、大学講師などなどいくつもの肩書きを持つ自然写真家・西村豊さんによるトークショーです。

写真を見ることが脳に及ぼす影響、動物の写真からその動物の心理を読み取ろうとする時の脳の働きなど、とても興味深いお話の内容に、参加者は感心したり笑ったり。

このイベントの収益金は、LFHC への支援としていただいているほか、東日本大震災復興支援にもあてられています。

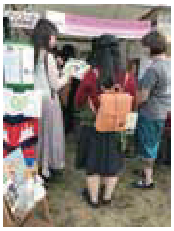
◀今年も盛り上がりました！

写真提供：清里フォトアートミュージアム

グローバルフェスタ JAPAN 2017
2017 年 9 月 30 日～10 月 1 日／東京・お台場

恒例となっていた出展ですが、2016 年はスケジュールの都合がつかず、参加を見合わせることに。そうしたところ、「フレンズがグローバルフェスタにいない！どうした？」という反響があまりにも大きく、2017 年は何としても出展したい、と考えていました。そこに力を貸してくださったのが、フレンズを応援するボランティアグループ【フレンズ応援団】の皆さんです。企画から展示物の制作、当日のブース運営まで、応援団の皆さんが中心となって進めてくださいました。好天に恵まれた両日。12 万人を超える来場者があり、フレンズブースも大盛況でした。

このようなボランティアにご興味がある方は、ぜひ、フレンズ事務局までご連絡ください！


◀フレンズ応援団大活躍

東京チャリティ・ガラディナー
2017 年 10 月 14 日／東京アメリカンクラブ

2016 年に引き続き、2 回目の東京チャリティ・ガラディナーを開催。前回が好評だったことから２回目はテーブル数を増やし、約 160 名のご参加をいただくことができました。

ドレスアップして集ってくださったゲストの皆さまには、ディナーやワインを楽しんでいただきつつ、このイベントのために選りすぐった品々のオークションに参加していただきます。ラオスツアーや京都ツアー､各種チケット､井津建郎のプラチナプリント､一品もののアクセサリー、人気のワインなどなど、用意したオークション品は、すべて完売という結果に。また、「LFHC での栄養失調治療への支援」へは、100 名を超える方々からご支援をいただきました。

▲ワインが美味だったとの声多数

▶身体に合わせて微調節

日本から、身体に障害がある子供たちに、車いすや座るための装具を作製し提供しているアジア・シーティング協会 (ASAP) の皆さんが来院し、LFHC で 1 日クリニックをオープンしてくださ いました。身体に障害を持った子供たちの中には、移動手段がないために学校へ行かれずにいる子もいます。また、身体に合った椅子や車椅子を使用することは発達段階にある子供たちにはとても重要なことです。こんな困難を解決してくさるサポートに、大変感謝です。今回は 8 人の障害を持つ子供たちへ車いすや椅子が提供されました。子供たちも家族も「わー！こんなに動ける！」「いつも抱えていなければいけなかったけど、これでとても楽になり ます」と大喜び。嬉しそうな顔に私たちも心躍る気分になりました。さらに 40 人以上もの子供たちがこうした装具を待っています。今後も引き続きのサポートをお願いしたいですね。**〈ラオス 2017 年 7~8 月の出来事より〉**

◀具合はどうかな？座り心地はどうだい？

赤尾和美 kazumi akao 看護師の「今月の出来事」から

私たち外国人が LFHC で担う役割は、ラオス人スタッフへの教育です。知識やスキルだけではなく、心のこもった質の高い医療を提供することを身に付けてもらいたい、日々の業務を通して “実感” しても らいたいと思っています。これは、カンボジアのアンコール小児病院でも目標としていたことでした。アンコール小児病院はスタッフの弛まない努力により、その目標を達成しました。そして、ラオス人スタッフもその道が見えて来てるなぁ…と最近感じます。ある日、訪問看護に向かう小さい渡し舟で見たスタッフの背中。なぜか急に、シャツに書かれた病院 名と重なって、「LFHC を背負っている！」という自信がみなぎっているように感じられました。開院当初は、多少不安がなかったわけでもなく (汗)・・・でしたが、2 年半を過ぎて、立派に着実に成長していると感じます。人材を育てることはとても時間がかかります。そして、目に見えにくいものです。ある日突然「おっ!」と気が付くものです。これからも「おっ！」がたくさんあるといいな～と思いながら、1 人にんまりとボートに乗っていました。頑張れ！頑張れ~!**〈ラオス 2017 年 7~8 月の出来事より〉**

▲見よ、この頼もしい背中を！スタッフの成長は喜びであり、仕事のモチベーションにもつながります

ルアンパバーンの市街に設置されたフレンズビジターセンターでは、毎月、献血キャン ペーンを行っています。ラオ赤十字血液センターの協力の元、8 月までに 6 回実施し、毎月 10~30 人の方々に献血にご協力をいただいています。その中には LFHC スタッ フや隣接する県立病院スタッフも含まれていて、血液の必要性を多くの人々に知ってもらおうと頑張っています。8 月の開催時には、ルアンパバーンで教育に携わるオース トラリア人の方からの依頼で、LFHC 検査技師のアノウシン君が子供たちに献血の方法や、どのように使われるのかなどを説明 する機会がありました。ラオスでは、献血に対する神話が多く語られており、身近なものではありません。このキャンペーンが少しでも事実を認識することにつながると嬉しいですね。**〈ラオス 2017 年 7~8 月の出来事より〉**

◀LFHC スタッフや県立病院から「自らお手本に！」と献血

▶真剣にアノウシン君の話に聞き入る子供たち

▶モクモクです

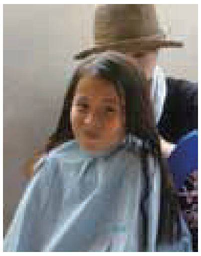
この時期ラオスは、新しい土地作りのために山焼きをして、田植え、種まきの準 備をします。どこへ行っても大掛かりな山焼きで、この煤が遠く街中まで飛んできます。空がもや〜っとするほどになりますし、洗濯物も煤だらけになってしまいます。そんな山焼きで逃げ場を失ってしまった大蛇が捕獲されていました！16 キロですって！もちろん食します。お値段 100 ドルは、「やす〜い！」とつい叫んでしまいましたが、皆さんはどう思われますか？（笑）相場が分からないですね。それにしても、かわいそうに…成仏してくださいと手を合わせてさよならしました。**〈ラオス 2017 年 1〜4 月の出来事より〉**

▲大蛇の丸焼き…初めて。重たかったわ

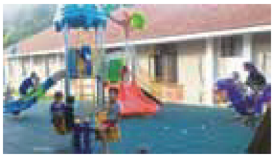
今年も来てくださいました！ヘアカットボランティア：ヘアーデザイナー・ウィズアウト・ア・ボーダーの皆さんです。
カンボジア時代の 2000 年から毎年、今年で 18 回目の活動です。毎年、悪路を車で数時間も行くような村へ、はさみとバリカンを持ってどこへでも行って、どこでも美容室開店です。
子供たちも待ち焦がれているので、到着後にはアッという間に列ができます。楽しみにしているのは子供たちばかりではなく、お父さん、お母さん、そして、お爺ちゃんやお婆ちゃんも一緒に並んでワクワク顔です。カットの後には、「いいじゃないか〜」「きれいになったわ〜」とみんなから言われて、恥ずかしそうにしながらも満足そうです。
カット待ち中は、日本からの折り紙や、けん玉、サッカーボールで一緒に遊び、一気に距離が近づきます。みんな「来年はいつ ?」と、すでに来年を楽しみにしていますよ。みなさん！また来年もよろしくお願い いたしますね！**〈ラオス 2017 年 5〜6 月の出来事より〉**

▶どんな場所でもはさみとバリカンさえあれば美容室！

◀いい笑顔ですね！


◀「きれいなお姉さんのなるんですー」って嬉しそう！

▼いつも賑やかなプレイグラウンド。



開院当初から構想にあったプレイグラウンドが、やっと完成しました！設営に当たっては、隣接する県立病院との交渉から始まり、許可をもらい、そして着工。とても長い時間がかかってしまいました。県立病院から出た着工のための条件は、土手のようになっている原っぱに土盛りをして平らな状態にする、というもの。そのためにかさんでしまう時間と経費を考えると少々頭が 痛い状況でしたが、完成後の子供たちな嬉しそうを顔を見たら、「良かっ た！」と心から思いました。ご協力をいただいた皆様には、ラオスの子供たちの代わりお礼を申し上げ ます。盛り土をした地面には、やわらかい素材のタイルが敷き詰められ、転 んでもいたくないよう施されています。毎日、子供たちの歓声が絶えません。(どう見ても近所から遊びに来ているだろう子たち多数・・・苦笑)
右の写真は、LFHC のキャラクター・ジャイディです。『ジャイディ』はラオス語で『優しい心』という ニュアンス。フレンズのミッションである「Compassionate care ＝ 心のこもったケア」を表現するために、開院当初にスタッフみんなの投票で決めたキャラクターと名前です。フレンズが大事にしていることをこのジャイディが、誰にでも分かるように表現していると実感します。ゆるキャラ大賞が あったら絶対大賞取れるな、と思います (笑)。先日、白血病の診断で LFHC では治療ができないために首都ビエンチャンの専門病院へ転送した 患者さんがいました。とても重症だったので、転送先でも手の施しようがないと言われ、治療はできないが院内にいるか、もしくはこのままルアンパバーンへ戻るかの選択を迫られたそうです。ご家族は、6 時間もの道のりを戻ることを決意しました。朦朧とした状態のまま酸素を吸入しながら陸路で帰宅したそうです。そうして家に到着後 10 分足らずで、息を引き取ってしまったということでした。LFHC では、ビエンチャンへ転送した場合には、慣れない首都で困っていないか、ちゃんと病院へたどり着いたかということを電話でフォローアップしています。その時に残念な結果となったことを聞き、『家族のための癒し訪問』に出向きました。ご両親とお話した約 1 時間で、色々な思いを知 ることができました。そして、少しは『喪失感』からの回復のお手伝いができたかもしれないと、同 行したラオス人スタッフが感じてくれたようです。さらに、ご家族から「病院 (LFHC) では、本当に良く診てもらえた。みんなとても気にかけてくれたことが忘れられない。ラオスで一番の病院だと思 います」と感謝の言葉を聞いたスタッフは、何か確信を持ったようにさえ見えました。こうした一つ 一つの出来事 が、スタッフの成長と Compassionate care の定着につながっていくのだなと思います。
ありがとう、ジャイディ！**〈ラオス 2017 年 9〜10 月の出来事より〉**

◀病院のイベントではいつもにこやかにジャイディが登場！

ご支援について

フレンズの活動にご支援をお願いいたします。

ご支援の方法をお選びいただけます。

●一般賛助会員：年会費１口6,000円

●学生賛助会員：年会費１口3,000円

●一般寄付　　：金額・回数自由

●正会員　　　：年会費　個人12,000円

団体・法人30,000円

＊ご支援いただいた方には、年２回発行のニュースレター、報告会やイベントの案内等をお送りします。

＊正会員は、総会において、団体の意志決定にご参加いただけます（委任状可）。正会員になるためには、当法人が定める入会申込書の提出が必要となります。別途お問い合わせください。

入金方法をお選びいただけます。

●郵便口座

加入者名：特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN
振替番号：00160-0-546217

●銀行口座

銀行名　：三菱東京UFJ銀行　中目黒支店
口座番号：普通預金0420041
口座名　：トクヒ）フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダージャパン

●クレジット決済

インターネットを通じて、クレジットカードでご支援いただくことができます。フレンズJAPANのホームページwww.fwab.jpにアクセスして右上の「寄付をする」をクリックし、手順に沿ってお手続きください。

＊寄付金控除が可能な領収証の発行方法が変わりました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

＊銀行からのお振込みや、ご自身の郵便口座より直接送金される場合、送金者を特定することができません。お手数ですが、お電話またはメールでご連絡をお願いいたします。

＊アンコール小児病院（カンボジア）に限定したご支援をご希望される方は、その旨を電話またはメールでお知らせください。振込用紙をご使用の場合は、備考欄にその旨をご記入願います。

Information

認定NPO法人格を取得しました

平成24年4月に施行された「改正NPO法」により、NPOを認定する所轄庁が国税庁から各都道府県または指定都市に移りました。この法改正に基づき、国税庁より認定を受けていたフレンズも、再度、東京都の審査を受ける必要がありました。
このたび、2017年10月16日に、フレンズは、新たに認定NPO法人格を取得しましたのでご報告いたします。
これにより、ご寄付に対しては、当団体より寄付金控除が可能な領収証が発行できることになりました。
認定NPO法人へのご寄付には、税制上の特例措置があります。個人なら住民税や相続税、法人は法人税を軽減することができますので、節税対策のひとつとしても、ぜひご支援をお考えください。
フレンズはこれからも、ラオスをはじめアジアの子供たちの笑顔のために力を尽くして参りますので、ご支援・ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

FRIENDS WITHOUT A BORDER

www.fwab.jp

特定非営利活動法人
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町16-8
共同ビル7F

TEL/FAX：03-6661-7558
friends@fwab.jp

Friends Without A Border
1123 Broadway,Suite 1210
NewYork,NY10010 USA
TEL：212-691-0909
FAX:212-337-8052

Lao Friends Hospital for Children
P.O.Box873,Luang Prabang,Lao PDR
TEL:856-071-254-247